

特 集

伝えよう！おふくろの味

三角 晴美¹, 筒井 静子²

¹石狩中部女性農業者ネットワークハーモニー会長 067-0056 江別市美原190番地

²酪農学園大学短期大学部 069-8501 江別市文京台緑町582

1 石狩管内女性農業者のネットワーク

女性農業者への学習・交流機会が継続的に確保されることと女性農業者の発想が十分に生かされる活動を展開していくことを目的として、2000年～2001年にかけて北海道の各支庁でネットワークが組織された。

石狩支庁においては、2001年4月、働きがいのある農業・住みやすい地域づくりに向けた活動の推進を目的として、石狩管内女性農業者ネットワーク“グググのグ”が組織化された。“グググのグ”とは、「グループのグループによるグループのためのグットアイデア」を意味しており、シンボルマークは、それぞれのグが花びら1枚1枚の形に表わされ、“グググのグ”という4枚の花弁が一つにまとまり1本の花になっていることを表現している。花の如く個々の感性を生かし、地域の担い手として一つにまとまり、地域に根ざしているという想いが込められているものである。

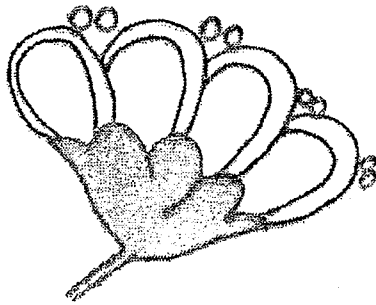


図1 “グググのグ”のシンボルマーク

2 ネットワーク活動

石狩管内女性農業者ネットワーク“グググのグ”は大きく三つのグループから組織されており、それぞれの下部組織としてさらに多くのグループがある。

昨年からの活動テーマを“選ぶなら農業・住むなら農村”として、農業(作物)について知らせる(知ってもらう)活動や自らのレベルアップのための勉強会などを実施している。主な活動は農産物の直売や農産物加工販売、現地視察、消費者交流、リーダー研修会などで、それぞれのグループ間の横のつながりを大切にしながら進めている。中でも石狩管内女性農業者フォーラム「夢きずく女性inいしかり」は、“グググのグ”の活動において最大の行事と位置付けている。2005年度のフォーラムからは、消費者交流の場として地場農産物を利用した農家の母さんの味料理講習会を取り入れている。また、これらの活動により生まれた料理のレシピ集を作成してフォーラム参加者以外にも販売し、農家の母さんの味のPRと普及に努めている。

3 ケータリング美利香

石狩管内女性農業者ネットワークの仲間7人で、ケータリンググループ美利香を結成した。このグループは今までのネットワーク活動から生まれたもので、石狩管内の農産物と海産物を使い、特別な料理ではな

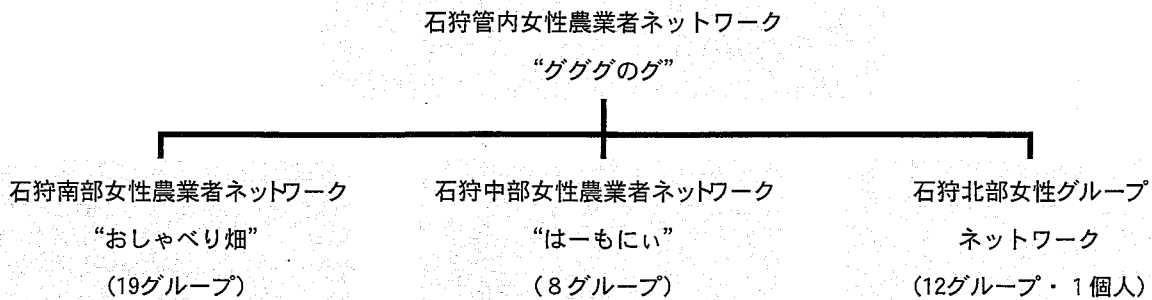


図2 “グググのグ”組織体制

く日常自宅で食べているようなもの、豪華ではないけれど豊かで安心のできる料理を提供することを目的としている。美利香のモットーは、家庭の母さんの味、つまり一番幸せな味を伝えようということであり、要望があれば出張料理や弁当も提供している。

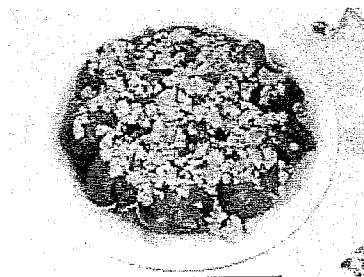
2008年2月には、「道産新品種を食す会」への料理の提供依頼を受けた。この会では30種類以上の料理を作ったが、自分たちにとって様々な作物の特性を知る良い機会にもなり、盛会のうちに終わることができた。



図3 「道産新品種を食す会」の様子



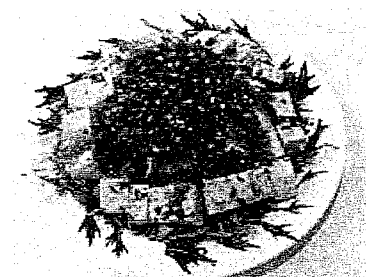
たまねぎ「早次郎」、道de酢、石狩産ニシンのマリネ



たまねぎ「早次郎」と挽肉の丸煮



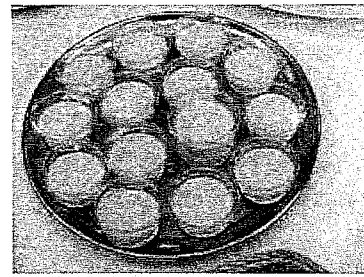
だったんそば「北海丁8号」のニョッキと石狩産野菜サラダ



大豆「ゆきぴりか」の豆腐と石狩産野菜サラダ



鶏「北海地鶏Ⅱ」の照り焼き



小豆「十育154号」の甘納豆入り杏仁豆腐

図4 「道産新品種を食す会」への提供料理の一例

4 今後に向けて

これらの活動を通していくつかの課題が見えてきた。一つは地場農産物を利用した農家の母さんの味料理講習会等において、消費者に教えること伝えることの難しさである。現代は殆どの人が食品の入手や食べることに苦労しないで毎日の食生活を営んでいることから、食に対する思いは希薄になっていると考えられる。このような現状において、食の基本ともいえる生産者側の思いをどのような方法で消費者に伝えれば良いのか悩むところである。

二つ目はケータリング美利香の活動であるが、料理手法は素人であることから、今後は料理の盛り付け、全体のディスプレイ、接客の意義などを考えてレベル

アップを図りたいと考えている。

一方、これらの活動を進める上での利点は、野菜のおいしい時期や素材の生かし方を知っているのは生産者である農家のお母さんたちであるという点である。さらに、いろいろなところへの働きかけも、個人よりはネットワークの方が動きやすい面を持っている。大きなイベントを運営できるのもネットワーク活動の強みといえる。

農業において女性が担っている部分は大変多いが、ネットワーク活動の一つのきっかけは、まず一人一人が自分の意識を変えて自分自身を向上させていくことにあった。このことを忘れずに、今後も一人一人の力を合わせてネットワーク活動を発展させていきたいと願っている。